

渡辺正氏所蔵資料集の編集と刊行

小林 茂（大阪大学大学院文学研究科）

第二次世界大戦終結直後における、参謀本部から大学など研究機関への外邦図のもちだしに際し、大きな役割をはたされた元大本営参謀、陸軍少佐の渡辺正氏は、第4回外邦図研究会(2003年11月8日、駒澤大学)にご出席下さり、当時の状況についてお話し下さった。また金窪敏知氏(元国土地理院長)の「終戦前後における参謀本部と地理学者の交流、および陸地測量部から地理調査所への改組について(渡辺正氏資料をもとに)」(『外邦図研究ニューズレター』2号, 2004年)で紹介されているように、渡辺氏は現在も当時の資料を所蔵しておられる。これらは、外邦図の来歴だけでなく、終戦前後の参謀本部と陸地測量部、さらに地理調査所などに関する貴重な資料として、地図史、地理学史、軍事史など各方面から注目されるもので、その刊行が望まれてきた。

すでにこの資料については、高木勲氏(ジオテック・リサーチ)および金窪氏の研究が進んでおり、その全容がほぼあきららかになっていった。刊行に関する私たちの希望をお伝えしたところ、幸い渡辺氏はこれをゆるして下さり、準備をすすめてきた。

ただし渡辺正氏所蔵資料は多岐にわたり、またそれが作製された当時の状況に関する知識なしには、十分な理解は容易ではない。また場合によっては、資料のもつ意義について思わぬ誤解が発生する可能性も懸念された。このため、刊行に際してはまず各方面の専門家からなる編集会議を開催し、そこでの討論をもとに調査・研究をすすめて、これをもとにしっかりした解説を付すことが必要と考えられた。

これにむけて、以下のように前後4回の会合をおこなってきた。

第1回、2004年1月25日、東京都杉並区上荻の渡辺氏宅

参加者: 渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳(防衛大)・小林茂(大阪大)

第2回、2004年5月16日、お茶の水のホテル聚楽

参加者: 渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳・長岡正利(元国土地理院)・久武哲也(甲南大)・小林茂

第3回、2004年8月7日、お茶の水のホテル聚楽

参加者: 渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳・源昌久(淑徳大)・長岡正利・久武哲也・小林茂

第4回、2004年11月28日、神田の学士会館

参加者: 渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳・源昌久・長岡正利・久武哲也・小林茂

このような協議やうちあわせをへて、2005年1月から徐々に原稿の編集を開始し、同2月には、未提出であった田中・久武両氏の原稿をのぞき、初校を全員に発送して訂正をくわえた。また同3月初旬になって、全部の原稿がそろい、さらに校正をかさねた。

以上のような経過で編集された渡辺氏所蔵資料集のタイトルは『終戦前後の参謀本部と陸地測量部 渡辺正氏所蔵資料集』で、体裁はA5判縦書き2段組、ページ数は計136に達した。編者は渡辺正氏所蔵資料集編集委員会、発行は大阪大学文学研究科人文地理学教室である。また以下のような目次構成となっている。

表紙

口絵

扉

執筆者紹介

はしがき 小林 茂

目次

本書の編集経過と構成 小林 茂

解説編

1. 『兵要地理調査研究会』について 久武哲也
2. 陸地測量部から地理調査所へ 金窪敏知
3. 史実調査部と地図の行方 田中宏巳
4. 兵要地誌類関係資料の解題 源 昌久
5. 渡辺氏所蔵地図 解説と目録

資料編

総説 1. 兵要地理資料集録（渡辺正氏資料）について 金窪敏知

総説 2. 兵要地理資料集録（渡辺正氏資料）解説
高木 勲

兵要地理資料集録（渡辺正氏資料）

1. 東亜戦争末期に本土決戦に備えて計画実施された兵要地理調査研究会に関する資料
2. 終戦時における地図等の焼却処理に関する資料
3. 陸地測量部組織の処理と内務省地理調査所設立に関する資料
4. 戦後進駐軍との折衝に関する資料
5. 兵要地誌に関する資料
6. その他（参考資料等）

附録

信濃毎日新聞連載記事「続・占領下の空白『地理調査所』物語」（第1回～第5回）

所蔵者の言葉 渡辺 正

あとがき 金窪敏知

以上のような渡辺氏所蔵資料集は、今後の外邦図に関する研究だけでなく、ひろく地図史、地理学史、軍事史などの資料としても参照されるようになると予想される。外邦図研究会にご理解をいただき、今回の刊行をお許し下さった渡辺正氏にあらためて感謝したい。